

農村歌舞伎

守り伝える地域の文化



新琴似歌舞伎復活 10周年記念公演「仮名手本 忠臣蔵」(平成18年)



地域の伝統文化を知り、それを守り育てること。こうした活動が、愛着の持てるまちづくりへとつながります。今回は、北区が提唱する「北区スローライフ宣言」の柱の一つである「歴史と文化」のまちづくり活動として、明治30年代、新琴似・篠路両地区で盛んだった農村歌舞伎文化の保存・伝承に取り組む地域の方々の活動を紹介します。

詳細 地域振興課まちづくり調整担当係 ☎ 757-2400 内線 253

新琴似歌舞伎

地域住民の手で復活

明治三十年ごろから大正の初めまで、常設の劇場を構えるほどに盛んだった新琴似歌舞伎。地元の農村青年たちによって演じられていたこの歌舞伎は、娯楽の多様化などによりその歴史が途絶えていました。

そして、時は流れて平成五年。地域住民の話し合いの中で、かつて新琴似の地にあった歌舞伎の地域を挙げた復活への動きが始まります。同年に新琴似歌舞伎伝承会(阿部重雄会長)が設立され、以後、同会を中心に、歌舞伎復活に向けた活動がスタートしました。

設立から三年後の平成八年、復活公演が盛大に開催されました。「当時は、本当に手探りで活動でした」と、伝承会事務局長の宮崎義晴さんは振り返ります。演技や化粧、せりふの言い回しなど、分からないことばかりで苦労は絶えませんでした。しかし、地域の後押しにより、新琴似歌舞伎は見事に復活を遂げたのです。



新琴似歌舞伎中学生公開講座(平成20年10月3日)

まずは知ってもらうこと

伝承会では、平成十四年から毎年、新琴似中学校(新琴似七の四)の生徒たちを対象に、公開講座を開催しています。狙いは、若い世代に地域の伝統文化を知ってもらうこと。「地元の方でも新琴似歌舞伎を知らない人が多いのが現状。少しでも多くの人に、地元の先人が築いた貴重な伝統文化を知ってもらいたいと思っています」と語る宮崎さん。

これまでの公開講座では、中学生には歌舞伎の衣装の着付けを体験してもらいま

した。実際に衣装を着て、とても楽しそうにしている中学生たちの表情が印象的と語る宮崎さんは、将来的には中学生たちに実際に演目を演じてもらったり、ほかの中学校などでの公開講座も開いてみたりできれば、と考えていると話していました。

次世代への伝統文化の継承。伝承会の活動は、今後も続きます。

新琴似歌舞伎伝承会からのお知らせ

伝承会では、会員を募集しています。伝統文化に興味のある方、地域で活動してみたい方からのご連絡をお待ちしています。

詳細 新琴似歌舞伎伝承会事務局
(新琴似7-4 プラザ新琴似内)
☎ 764-8804



宮崎事務局長